

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	日本語教育センター(国際連携機構)
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1)研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

#### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2011年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 教育研究組織体制の見直し案を作成する。	教育研究組織体制の見直し案の作成状況 評価基準： A→教育研究組織体制の見直し案を作成 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定			B	B	B
2. 教育内容の情報を内外に発信する方策案を作成する。	教育内容の情報を内外に発信する方策案の作成状況 評価基準： A→教育内容の情報を内外に発信する方策案を作成 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定			A	A	A
3. 優秀な人材育成のための日本語教材・カリキュラム開発に係る教員組織案の策定	教員組織案の策定状況 評価基準： A→教員組織案を策定 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定			B	B	B
4. 日本語教育の質保証に係る日本語教育研究活動案を作成する。	日本語教育研究活動案の作成状況 評価基準： A→日本語教育研究活動案を作成 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定			A	A	A

☆

2012年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

## 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 本センターの日本語常勤講師採用人事委員会による選考を経て、2013年4月1日付で本センター常勤講師3名を新規に採用した。専任教員および特別契約教員において、2014年8月退職予定の常勤講師1名の後任人事について検討を行った。また、当該教員退職後の常勤講師体制や新規常勤講師の採用方針についても検討した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年4月採用の常勤講師3名のうち、結果として、2名が2014年3月に自己都合により退職した。また2014年度末に契約終了予定であった常勤講師1名も、2014年3月に退職し、本センター常勤講師は本来5名の体制であるところ、2014年度始めには2名しか在職しないという事態になり、採用計画の大幅な見直しを迫られた。さらに、留学生数、特に交換学生数の急増に伴い、特別契約教員の業務負担が過大になっている現状を改善する必要がある。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 期限の定めのある雇用形態である常勤講師制度を利用する以上、常に契約期間満了前の退職の可能性が伴う。2013年度のように複数名が同時に退職するという事態も現状の雇用制度では避けがたく、そうした事態に備えて常勤講師の担当業務や専任教員・特別契約教員との職務分掌を見直す必要がある。特別契約教員の責任コマについては、2コマの減免要求が認められたが、恒常的に過大な業務負担を強いられているため、今年度以降も引き続き、同様の減免を要求する必要がある。</p> <p>その他</p>	☆  ☆  ☆  ☆
目標2	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2011年度に本センターが設立されて以来、『関西学院大学日本語教育センター紀要』を年1回発刊し、教育活動の内容の紹介、および本センター所属教員の研究活動や教育実践の成果を報告している。また、より定期的な通信物として「日本語教育センター通信」を年5回発行している。さらに、年2回、関学日本語教育研究会を開催しているが、2014年3月開催時には、新しい試みとして、センター所属教員による実践報告会を実施した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 本センター紀要発刊により、教員の研究活動や教育実践の成果を学内、学外に広く周知することができた。また、2013年度に初めて実施した実践報告会については、企画時の想定よりも多数の発表応募があり、参加した教員から非常に高い評価を得ることができた。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 本センター紀要および本センター通信については、2014年度も同様に発刊を予定している。また、実践報告会についても、2013年度の開催後に実施したアンケート調査の回答をもとに、実施方法に改善を加えながら、2014年度も引き続き開催する予定である。</p> <p>その他</p>	☆  ☆  ☆  ☆
目標3	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2014年2月～3月にかけて、本センター専任教員・特別契約教員・事務職員により、国内の日本語教育機関(学習院大学、立教大学、明治大学、南山大学、立命館アジア太平洋大学の各日本語教育担当部署)、および韓国、台湾の日本語教育機関(国立政治大学(台湾)、東呉大学(台湾)、東海大学(台湾)、国立台湾大学(台湾)、漢陽大学(韓国)、ソウル市立大学(韓国)、東国大学(韓国)、西江大学(韓国))の訪問を実施した。訪問先での日本語教育に関わる教育組織、教員体系、指導カリキュラム等に関するヒアリングを行った。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 各教育機関におけるヒアリング内容から、本学の将来構想における日本語教育や留学生の位置づけを再確認し、今後本センターがめざすべき日本語教育の在り方を再検討した。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 本センターにおける日本語教育は、対象学生が交換学生、学部留学生、大学院留学生と多岐にわたり、また、2012年度からはグローバル・スタディ科目の提供を通じて、留学生のみならず、日本人学生も日本語教育センターの科目履修対象となった。そのため、それぞれの対象者に対応できる効果的な教育体制を整備する必要があり、今後とも継続的な教育組織の充実が欠かせない。</p> <p>その他</p>	☆  ☆  ☆  ☆

目標4	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 本センターの企画・運営により、関学日本語教育研究会を継続的に年2回開催しており、実践報告会を新たに実施するなど、教員の教育活動に資する場を提供している。また、学生の出欠管理、成績管理を通じて、欠席回数の多い学生への個別指導を実施し、学生の学習意欲継続に努めている。さらに、学期開始時・終了時には、非常勤講師を含め、授業担当者間で講師会議を実施している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 研究会の開催により、教員間の研鑽意欲向上や情報交換に大いなる成果が見られた。また、留学生数の増加に伴い、本センターに関わる授業担当教員数も増加しているが、科目の統括者を中心に、教員間の教育水準の保持に努めている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 研究会の開催、欠席回数の多い学生への個別指導、学期前後の講師会議は、今後も引き続き継続して実施していく。	☆
		その他	☆
備考			☆